

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

睦月 月次祭挨拶

サルートン皆様こんにちは
早くも新年より三週間が過ぎ、今日は睦月むつきの月次祭を皆様方と執り行わせて頂き誠にありがとうございます。

新年祭には若い人達も参拝に来て頂き、雰囲気明るくなりました。

昨年は、元旦日から、能登半島大地震・羽田空港での民間機と海上保安庁機との衝突炎上と痛々しい出来事が発生いたしました。

天候も昨年末より正月三日は、この地方では好天に恵まれ各地へ行かれた方達もおられたと思います。

十日には初雪が舞い、一時は積雪するような降り方でしたが、お陰様で昼には雪も止み一安心いたしました。
節分人型活動を展開されて

おられる方は、二月一日土曜日、月始祭後には締め切らせていただきます。

この日には必ず、分苑へ届けて頂きますようお願いいたします。

また、この日には月始祭と節分大祭遥拝祭を行います。

節分大祭に参拝されない方は是非分苑で、ご参拝をお願いいたします。

二月の行事としましては、九日十四時から会計監査をお願いして、十九日の月次祭の後、令和六年度の決算の総代会を開催いたします。

事務所の棚に総代会の案内を入れていきますので宜しくお願い致します。

二月二十三日日曜日には、教本三級の講習会を開催いたします。

掲示版に、申込表を張り出してあります。また、昨年より教本講習会是一日だけの講習

日となつていきますので、以前取得したけれどまた復習したいと思われる方も歓迎いたします。

本日は、前田特派にお香良洲神社の今後の状況について講話をして頂きますので宜しくお願いいたします。

現在、全国的にインフルエンザが流行しています。日常におかれましては、手洗い・うがい等を励行して、日頃より体調管理に気を付けて頂き、先ずは、人型活動をお願いいたします。

本日の参拝誠にありがとうございます。コーランダンコン。



玄関前の満天星（どうだん）つつじの雪景色

行事報告

●新年祭

一月一日（日）

- 参拝者 四十二名
- 斎主 近藤 哲史
- 祭員 石原 松生
- 祭員 天野 芳幸
- 祭員 畠山 茂
- 典礼長 小林 清人
- 伶人 飯田 直美
- 伶人 岡田 幸子
- 進行 堀 宜雄



併せて、成人式祝詞が奏上され、祭典後に本部直心会からの記念品・分苑からのお祝いの品が贈呈された。新成人の皆様おめでとうございます。

新成人

- 神ノ倉分所 中野さくら
- 神ノ倉分所 菅原 哲彦
- 神ノ倉分所 藤沢 良智

●月次祭

一月十九日（日）

- 参拝者 三十一名
- 斎主 高嶋 善雄
- 祭員 堀 健太郎
- 祭員 日比 達朗
- 祭員 妹尾 正治
- 祭員 仙頭 志音
- 祭員 永島 昶
- 祭員 畠山 茂
- 裏方 森 満政
- 裏方 伊藤久仁男
- 典礼長 小林 清人
- 伶人 飯田 直美
- 伶人 佐古 美鈴
- 伶人 長谷川美枝
- 伶人 伊藤恵美子
- 進行 青山 将士





引き続き「お香良洲神社祈念碑建立、除幕の儀について」前田特派より、当日の動画をもとに説明・紹介があった。

行事予定

- 二月十六日(日) 月次祭 午前十時半より 総代会
- (令和六年度決算報告)
- 二月二十三日(日) 教本三級認定講習会
- 三月一日(土) 月始祭 午後一時半より
- 三月一日(土)・二日(日) 東海サミット(岐阜主催)
- 会場 グリーンパレス春日井

忍び草

神ノ倉分所 本間 静 毘女
 享年 九十四歳
 令和七年一月一日 帰幽
 謹んで哀悼の意を表します

教本3級認定講習会の開催について

- 日時・場所 平成7年2月23日(日) 8:30(受付) 9:00~16:30 名古屋分苑
- スケジュール 分苑掲示プログラムを参照
(実践リーダー教本「初級編」に基づいて実施、教本は分苑で購入できます)
- 講師 堀宜雄・妹尾正治・山田謙三 特任宣伝使
- 持ち物 筆記用具 教本「初級編」
- 参加費 昼食代500円をお願いします。
- その他 令和6年より教本講習は1日のみにになりました。



じいじの道草雑話

特任宣伝使 妹尾正治

【思えば遠くへ来たもんだ】

『歌は世につれ・世は歌につれ』コロンビアレコードの専属司会者、玉置宏さんの名調子である。

ひと昔前はイントロが流れる中、この名調子と歌詞のサビの情景を語り『歌うは演歌の歌姫○○さんです』と続く。

スポットライトに浮かぶ華やかな衣装をまとった歌手に、目は釘付けになり歌声に酔いしれたものだった。

じいじは文句を言うわけでないが、最近のアイドル達は動き回り、踊りまくり、やたら横文字の歌詞を区切りおかしく歌っている。

目は疲れるし耳は痛くてとてもついでに行けない。

昔の歌は良かったと、おもわず口ずさむ『時の流れに身をまかせー♪』知らず知らず歩いて来たー細く長いこの道ー♪『でこぼこ道やー曲がりくねった道ー♪』

歌と共に七十五年の人生を振り返ると、喜怒哀楽の情景が走馬灯のように蘇り、目が潤んでくる。

昭和二十四年に生をうけ、昭和は、就学・就職・結婚。じいじたちの新婚早々はテレビは白黒、冷蔵庫もエアコンも無かった、安月給ながらローンで冷蔵庫を買ったりして、少しづつ人並みの生活に近づいていった。

そして子育て、子供達にはお古を着せ、新しい服は買って上げられなかった、でも三人とも素直な子に育ってくれた。平成になって三人の娘が嫁ぎ九人の孫が授かり、令和になった今、孫たちは社会人二人、大学生三人、高校生二人、中学生二人になった。

『思えば遠くへ来たもんだー♪』・もう少し人生の旅路は続く

